

よぬだ ところどころ



二十五号

ヨナダーが下米田・牧野の色々な見どころを紹介するよ

信友の周辺と竹林

信友は起源の古い集落である

信友という地名が、前回で鍛冶職の集団が移り住んだということが起源であるとする説を述べた。さらに、中山神社はその集団の守護神という位置づけがされるのではないかと説明をした。それでは、その信友という職能集団がいつごろこの地に定着したかはよくわからないのが現状である。これらの鍛冶集団は、小山や牧野にもみられ、この集団は自給自足であったと推定される。つまり、鍛冶から得られる製品を商品として販売し、食料や衣服を購入するというものではなかったと思われる。とすれば、生活に必要なすべてのものが周辺にそろわなければならない。そのようなものが近辺で得られるような立地が必要となる。このような観点から信友地区を見てみると、まず米や穀物の生産、住居用の木材・竹材・紙等、燃料用の広葉樹林、衣類用の絹等の繊維類、さらに、周囲の武装勢力から守るための地形などを勘案すると信友地区の優位性がよくわかる。

① 垓ヶ洞池を中心とした小河川とため池群の形成

② 羽掛神社と衣類生産

③ 集落の背後の丘陵地の広葉樹林と竹林

これらのうち、竹林についてみると、次のような特徴がある。竹は住居の土壁の下地となり、籠やザルに至るまで枚挙にいとまがない。これらの竹林が下米田の周辺にみられるが、そのほとんどが目的を持って植えられたものであることはあまり



り知られていない。小山の佐合さんの記録によれば、段丘崖の崩れやすい場所に、修験道者が植えて雨水による土地の崩壊を防いだものという。さらに、土屋さんの記録によれば則光の太平に竹種として「マダケ・ハチク」を植栽し、今後誰かが喜ぶ時が来て東山に竹藪のできるのを祈ってやみませんとしている。この信友に上写真のようなオナゴダケがあり、これも目的を持って植栽されたと考えられる。この竹は、戦後まで子供たちの杉鉄砲や紙鉄砲の材料となった。

